

令和5年度 学校努力点全体計画

1 研究主題

伝えよう！自分の思いを 考えよう！分かりやすい伝え方を

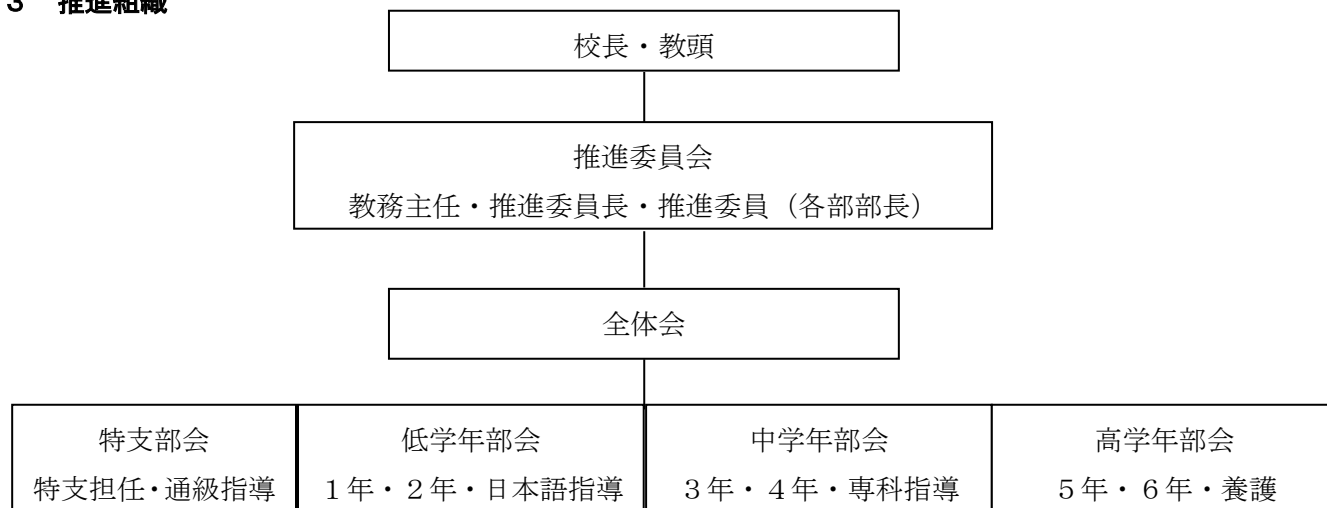
2 研究のねらい

本校では、昨年度に引き続き、今年度も「伝えよう！自分の思いを 考えよう！分かりやすい伝え方を」というテーマで研究を進める。自分の思いを伝えたり、分かりやすい伝え方を考えたりできる児童とは、言語を通して適切に表現し、論理的に思考したり豊かに想像したりすることができる児童のことである。このような力を高めることができれば、新たな発想や思考を創造する原動力となり、未知の状況にも対応できる力を育成することにつながると考える。

昨年度は、同テーマのもとで、「書くこと」に焦点を当て、授業実践と日常実践を行った。授業実践では、「伝えたいことを明確にする」「文章の構成を考える」「書き表し方を工夫して書く」の3場面で手立てを工夫した。その結果、日常的に書く機会を設けて、一定時間集中して書く経験を積み、書く量を増やすことができた。また、国語科の実践単元において、自分の考えや思いなどの伝えたいことをもった上で、分かりやすい文章になるように構成を考え、読み手を意識した工夫をしながら書くことができるようになってきた。さらに、5月と12月に実施したアンケートからは、「自分の思いや考えを書くことが好き」や「自分の思いや考えをうまく書くことができる」と回答した児童の割合が上がった。このことから、書くことに対する意識が高まってきたと考えられる。しかし、一方で与えられた課題やテーマだったために、児童自身の「書きたい」という思いを十分に引き出すことはできなかった。また、国語科の一単元において、自分の思いを書き表すことはできたが、それを伝え合い、児童自身が「伝わった」と感じる段階には至らなかった。学習指導要領（平成29年版）の指導事項として、「書いた文章に対する感想や意見を伝え合うことによって、自分の文章のよいところを見付ける」と示されている。書いて伝え合うことによって、自分の文章のよいところを見付けて自信をもつことができるようにし、「書きたい」という思いが高まるようにしたい。

そこで、今年度は、「相手に伝わるように工夫して書き、それを伝え合う活動」に重点をおき、授業実践と日常実践において手立てを工夫し、目指す児童に迫りたい。

3 推進組織



4 推進計画

月	推進委員会・全体会・各部会	月	推進委員会・全体会・各部会
4	4/6 推進委員会① ○今年度の研究主題・推進計画の決定 ○研究の進め方についての協議 4/11全体会① ○研究主題・研究の進め方の共有 ○各部の研究計画の検討 4/11部会① ○推進組織・推進計画の確認 ○授業者の決定（前期・後期） 4/17～4/21 ○第1回アンケート実施・集計 4/27部会② ○単元、手立て、検証方法の検討 ○前期実践指導案作成	10	10/5全体会② ○各部の取り組みの中間報告 10月中 ○努力点だよりの作成・発行（教務） 後期①実践（10/6～11/22） 後期①実践終了後 ○手立ての見直し 後期②実践（～12/1） 後期②実践終了後 ○後期実践の分析・検討（成果と課題）
5	5/26部会③ ○前期実践指導案検討 ○授業日の決定・報告		
6	前期①実践（～6/23） 前期①実践終了後 ○手立ての見直し 前期②実践（～6/30） 前期②実践終了後 ○前期実践の分析 ○後期実践に向けた手立ての改善についての検討	12	12/11～12/15 ○第2回アンケート実施・集計 12/18推進委員会③ ○最終報告のまとめ方の確認 ○最終報告の進め方についての協議 ○最終報告書の作成（～2/7） ○学校評価結果の分析と次年度の研究主題の検討
7	7/19部会④ ○単元、手立て、検証方法の検討 ○後期実践指導案作成 7/19推進委員会② ○中間報告のまとめ方の確認 ○中間報告の進め方についての協議 ○中間報告書の作成（～9/25）	1	1/10推進委員会④ ○次年度案の検討
8		2	2/8部会⑤ ○最終報告の発表準備 2/15全体会③ ○各部の取り組みの最終報告 2/19推進委員会⑤ ○次年度研究主題・推進計画の最終検討 2月中 ○努力点だよりに作成・発行（教務）
9	9/19部会⑤ ○後期実践指導案検討 ○授業日の決定・報告 ○中間報告の発表準備	3	3/14全体会④（職員会） ○次年度研究主題・推進計画の提案

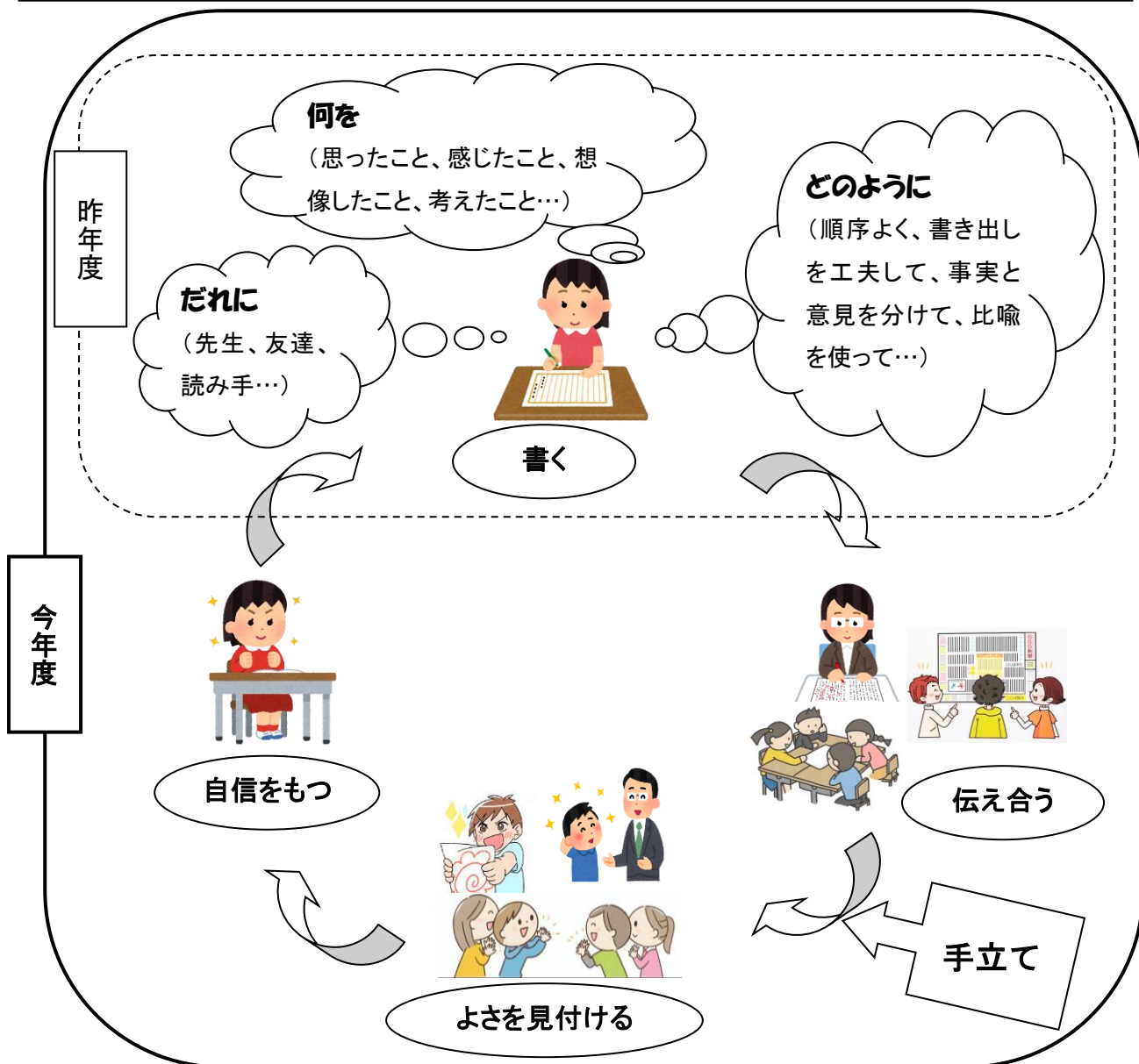
5 目指す児童像

昨年度より、「言語を通して適切に表現し、論理的に思考したり豊かに想像したりすることができる児童」の育成に向けて実践に取り組んでいる。昨年度は、低学年・特別支援学級において、「自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて書くことができる」、中学年において、「書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を入れて書くことができる」、高学年において、「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考え、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことができる」ことを目指し、実践に取り組んだ。その結果、書くことに対する意識の高まりを自覚する児童の姿が見られるようになってきた。

そこで、今年度は、さらに「書きたい」という意識を高めるとともに、「伝わった」と感じられる児童の育成を目指す。



相手に伝わるように工夫して書き、それを伝え合うことによって、文章のよさを見付けることができる児童



6 研究の方法と内容

(1) 手立て

① 日常実践での手立て

週1回、火曜日の朝の時間に「かきたいむ」を設定し、10分程度、短作文プリントに取り組みさせる。内容を、「なぞり書き」「発想メモ」「連想ことば」「フキダシ作文」「なりきり作文」「空想作文」などによって、児童の「書きたい」という気持ちを引き出す。また、難易度の低い内容から徐々に高めていくことで、取り組みやすくする。さらに、前半5分を書く時間、後半5分をペアやグループで伝え合う時間にするによって、「伝わった」という気持ちを味わわせる。

教材は、「10分間書く力がつくプリント」（清風堂書店）等から選択し、プリント（B5）は各学年で準備する。私費で購入した透明のクリアホルダー（A4）に入れて、常掲する。

② 授業実践での手立て

それぞれの部会で、「相手に伝わるように書く」ための手立てと「よさを見付ける」ための手立てを考え、国語科で授業実践を行う。活動としては、以下の場面が想定される。

豊かな書く	日記・物語・詩・短歌・俳句・随筆・読書感想文・卒業文集など	
確かな書く	論理的（説明的）	記録文・説明文・紹介文・解説文・報告文・意見文・レポート・提案文など
	社会的（実用的・日常的）	手紙・案内状・お礼状・依頼文・ポスター・パンフレット・リーフレットなど

【「教室で使えるカクトレ」（東洋館出版社）より】

③ 常時活動での手立て

分かりやすい文章を書くコツをまとめた「書き方名人」【資料1】を教室に常掲し、書く活動で活用する。

書く活動では、常に「誰に伝えるのか」「何を伝えるのか」を意識させる。また、「どのように伝えるのか」では、分かりやすく伝えるために、見たこと・聞いたこと・話したこと・におい・さわった感じ・思ったことを入れて書くように指導する。

また、活動によって、下記のリスト【資料2】の内容を「どのように伝えるのか」の重点項目として付け加え、これがよさを見付ける時の観点となるようにする。リストも常掲する。



【資料1】

- ① くわしく … いつどこでだれがなにをどうした(どう思った)
- ② じゅんばん … いちばんめはにばんめは ますつぎにそしてさらに
- ③ まとまり … はじめ・なか・おわり
- ④ 理由・例 … なぜなら ○○だから たとえば
- ⑤ 読み手 … その言葉はその人にも分かる?
- ⑥ 書き言葉 … ○○したんだけど → ○○したのですが・○○したが
- ⑦ 書き出し … 会話文から 結論から 問いかけから
- ⑧ 事実か思いか … である? だと思おう?
- ⑨ 資料を使って … 図表引用

【資料2】